# 4.　juseフォルダにあるファイル

　juseフォルダの下には次のファイルがあります。

* JuseOffice.vbs: 親フォルダにあるものと同じ
* Juse.wsf: JuseOfficeを利用しやすくするための支援スクリプト
* const\_xl.vbs: Excel用の定数を定義したファイル
* const\_wd.vbs: Word用の定数を定義したファイル

　juseというフォルダは、適当な場所にフォルダごとコピーして下さい。

　どこでもかまいませんが、Publicフォルダ(通常は C:\Users\Public)の下に置くことをお勧めします。

## (1)　送るメニューへの登録

　Juse.wsf を実行すると「コマンド入力」の場面になるので、半角のスラッシュ記号 ‘/’ を入力してエンターキーを押します。

　これで送るメニューに Juse が登録されます。

　再び同じ操作をすると、今度は送るメニューから Juse が消去されます。

　送るメニューに Juse が登録されている場合、エクセルを動かすためのスクリプトを作成し(たとえば test.txt)、Explorer上でその test.txt に焦点を当てた状態で送るメニューの Juse を選ぶと test.txt がスクリプトとして実行されます。

　test.txt の置き場所(フォルダ)はどこでもかまいません。

　test.txt にはwsfスクリプトに出てきた「おまじない」は必要ありません。

　たとえば下の4行の記述だけで大丈夫です。

[ワークブックを開く] "test.xlsx"  
[ワークシート].Range("A1").Value = "Hello"  
[ワークブックを保存]  
[エクセルを終了]

　wsfの「おまじない」を書くのが煩わしい場合に利用してみてください。

## (2)　ヘルプの書き出し

　Juse.wsf を実行して「コマンド入力」の場面になったとき半角の疑問符 ‘?’ を入力してエンターキーを押します。

　すると、Juse.wsf があるのと同じフォルダに Juse\_help.txt が書き出されます。

　疑問符の代わりに help の4文字でもかまいません。

　Juse\_help.txtには JuseOffice.vbsで定義されている関数やサブルーチンについて簡単な説明が書かれています。

　半角の疑問符だけ、あるいはhelpの4文字だけを書き入れたファイルを用意して Explorer上でそのファイルに焦点を当てた状態で送るメニューの Juseを選択すると、やはり Juse\_help.txt が書き出されます。

　この場合は Juse.wsfと同じフォルダではなく、Explorerで開いているフォルダに書き出されます。

　ヘルプファイルには、たとえば下のような記述が含まれています。

Function [ワークブックを開く](FileName)  
ワークブックを開く。[ワークブック], [ワークシート]をセット。

　ヘルプファイル中の全角「＊」で始まる行は分野を示す者です。

　次の者があります。

* ＊ スクリプトの実行にかかわるサブルーチン
* ＊ Excel関連の関数・サブルーチン
* ＊ Word関連の関数・サブルーチン
* ＊ DataBase(accdb, mdb, xlsx, xls)関連
* ＊ その他のサブルーチン・関数

　最後の「その他」には、たとえば下のようなものがあります。

* Function [ファイル名の一覧](wildName)
* Sub [ファイルを削除](FileName)

～　以上　～